

ごあいさつ (事業の概況)

平素は変わらぬご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。

本年も、当金庫の経営内容をご理解いただき、引き続き安心してお取引いただけますよう、ディスクロージャー誌「上越信用金庫の現況2013」を作成いたしましたので、ご高覧いただけますようお願い申し上げます。

平成24年度の我が国経済は、東日本大震災からの復興需要や政府のエコカー補助金等の政策効果と、日本銀行による積極的な金融緩和の継続により、夏場にかけて回復に向けた動きが見られました。しかしその後、欧州債務問題が再燃したことや中国経済の景気悪化懸念が強まるなど、世界的な景気減速による海外需要の減少を背景として輸出や生産が減少したため、製造業を中心に求人が減少し、雇用の改善の動きに足踏みが見られたのに加えて、企業の設備投資や収益計画も下方修正されるなど、景気は弱い動きとなり、底割れが懸念される状況となりました。

こうした中、総選挙を経て発足した自民党安倍政権下での経済政策に加え、日本銀行が1月に「インフレ目標」を導入し、さらに日本銀行の正副総裁の交代が、今後、政府と一体となってデフレ脱却へ向かうという日銀の強い姿勢として市場から好感され、急速に円高の修正と株高を導きました。しかし、現状、当金庫の取引先では、株高の恩恵は顕著に表れず、一方で円安による原材料等の値上げが、今後、企業収益を圧迫する懸念がでてきた年となりました。

こうした状況下において、預金は期末残高200,583百万円となり前年度期末比568百万円増となりました。科目別では、定期性預金が122,490百万円、要払性預金が78,092百万円、人格別では、個人預金が166,233百万円、法人等の預金が34,350百万円となりました。

貸出金は期末残高76,138百万円となり前年度期末比2,501百万円増となりました。科目別では割引手形が1,440百万円、手形貸付が6,783百万円、証書貸付が62,636百万円、当座貸越が5,277百万円、人格別では、個人への貸出金が26,955百万円、法人等への貸出金が49,183百万円となりました。その結果、預貸率は37.95%となりました。

有価証券は期末残高76,488百万円となり、前年度期末比3,204百万円減となりました。

損益状況につきましては、業務純益484百万円、経常利益478百万円、当期純利益454百万円となりました。

当金庫では、昨年第2次『しんきん「つなぐ力」発揮』3ヵ年計画をスタートさせました。この3ヵ年計画では「永続性ある経営の確立」「課題解決型金融の強化」「独自性の更なる発揮」を3ヵ年の基本方針とし、中小企業の経営支援等を中心に、地域にお役に立ち、地域に必要とされ、地域に愛されることを目指してまいりました。

既に、中小企業円滑化法の適用期限が到来しましたが、当金庫の姿勢は何ら変わることはなく、引き続き課題解決型金融の実践に努め、地域の持続的発展の実現につなげてまいります。

今後も、中小企業や個人のお客様の抱える諸問題を把握できるよう、コンサルタント機能を発揮できる能力の育成・強化や、行政、外部機関や専門家などの連携を強化し、一層の支援体制の整備に努めてまいります。

終わりに皆様方のご発展、ご隆盛を心からお祈り申し上げるとともに、一層のご愛顧を賜りますよう切にお願い申しあげ、ご挨拶いたします。

平成25年7月



理事長 笠原 和博